

令和3年 1月13日発行

とっとり弥生の王国推進課 青谷上寺地遺跡整備室

青谷かみじち遺跡

NEWS



Vol. **17**
2021 Winter

発行：とっとり弥生の王国推進課
青谷上寺地遺跡整備室

〒689-0952

鳥取市青谷町青谷 667

鳥取市青谷町総合支所 2F

電話 0857-85-5011



今年度は、工事用道路の敷設ふせつを行います。

青谷上寺地遺跡の本格的な整備が始まりました！！ 山陰道南側の整備工事に着手



谷を盛り上げていきたいと考えています。

また、「弥生時代の生活・技術を体感」するための様々な取り組みを進める中で、地域の皆様と一緒に青

谷を盛り上げていきたいと考えています。

展示ガイダンス施設の整備では、「弥生時代の本物に感動する」をテーマに、重要文化財に指定された出土品などを間近に観察できる展示施設を建設し、弥生人のDNA分析など、最新の研究成果も情報発信できる施設を整備します。

また、「弥生時代の生活・技術を体感」するための様々な取り組みを進める中で、地域の皆様と一緒に青谷を盛り上げていきたいと考えています。

展示ガイダンス施設の整備では、「弥生時代の本物に感動する」をテーマに、重要文化財に指定された出土品などを間近に観察できる展示施設を建設し、弥生人のDNA分析など、最新の研究成果も情報発信できる施設を整備します。

また、「弥生時代の生活・技術を体感」するための様々な取り組みを進める中で、地域の皆様と一緒に青谷を盛り上げていきたいと考えています。

展示ガイダンス施設の整備では、「弥生時代の本物に感動する」をテーマに、重要文化財に指定された出土品などを間近に観察できる展示施設を建設し、弥生人のDNA分析など、最新の研究成果も情報発信できる施設を整備します。

また、「弥生時代の生活・技術を体感」するための様々な取り組みを進める中で、地域の皆様と一緒に青谷を盛り上げていきたいと考えています。



裏面にも青谷上寺地遺跡の最新情報がありますので、ぜひご覧ください。

重要アイテムか？ 発掘調査で銅鏡と櫛が出土！

遺跡の北側を発掘した令和2年度の発掘調査の出土品の中から、銅鏡と櫛を紹介します！

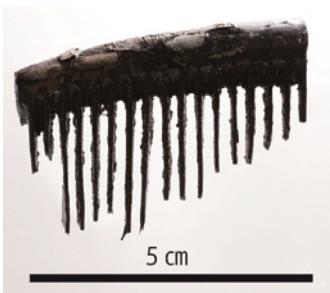
銅鏡は、背面（ものが映る面の裏側）に同心円の文様がある重圏文鏡です。直径37mmと小さく、簡素なつくりであることから、4世紀ごろ国内で作られた鏡と考えられます。鏡は、古墳の副葬品として、あるいはマツリ場で使用されていました。

櫛は、一本の硬い木材を削り出し、仕上げに黒い塗料を塗っています。形は現在のものとよく似ています。かつて櫛は、不思議な力をもつと考えられていました。日本の神話には、あの世からこの世へ逃げ帰る際、イザナノミコトが櫛で追手の足止めをする場面があります。今後、この櫛のことも詳しく検討する予定です。

このように、出土した銅鏡と櫛は、当時の人々にとってとても重要な道具だったと思われる、今後この場所の性格を解明する手がかりとなることを期待しています。



銅鏡（重圏文鏡）



櫛

※両端が欠けています

研究最前線！ 弥生人ってどんな顔？

この頭蓋骨は、西暦2世紀後半に青谷上寺地遺跡で暮らしていた男性のもので、今から20年ほど前に行われた発掘調査で出土し、頭蓋の中に脳の一部が発見されたことで注目を集めました。さらに歯の一部を分析したところ、DNAがとても良好に残っていることも分かりました。そこで、現在、DNA分析から得られた情報をもとに、この男性の生前の顔を復元しています。

一体、この男性は、どのような顔立ちだったのか？ 復元には今しばらく時間を要しますが、令和3年の秋頃には、この男性の「素顔」をお披露目できれぱと考えています。ご期待ください。



復顔のモデルとなった頭蓋骨



青谷上寺地遺跡NEWSの最新号とバックナンバーは、とっとり弥生の王国推進課のホームページでご覧いただけます。<http://www.pref.tottori.lg.jp/yayoi-suishin/>

